

⑦ にぎわいや交流の場となるみどり

人が集まり、にぎわいが生まれるオープンスペースとして、公園などのほか、イベントの時に歩行者天国として利用される道路などがあります。市役所の駐車場やシンボルロードは、彩夏祭やアサカストリートテラス等の会場として活用され、黒目川は桜の時期の花まつりや川まつりの開催場所になり、多くの人が交流する大切な場所になっています。また、お寺や神社の境内では地域に根ざしたお祭りや行事が行われており、昔から続くにぎわいの場として親しまれています。

表 参-5 にぎわいを生み出すオープンスペースの例

場所・空間	内容や具体例
公園や広場	都市公園、児童遊園地など (分析では、面積が 1,000 m <sup>2</sup> 以上の大きなものを対象にしています。)
道路や駅前広場	市役所通り、駅西口富士見通線、朝霞・北朝霞駅前広場など
神社・寺	地域のお祭りや行事が行われる境内など
河川の周辺	黒目川、越戸川周辺

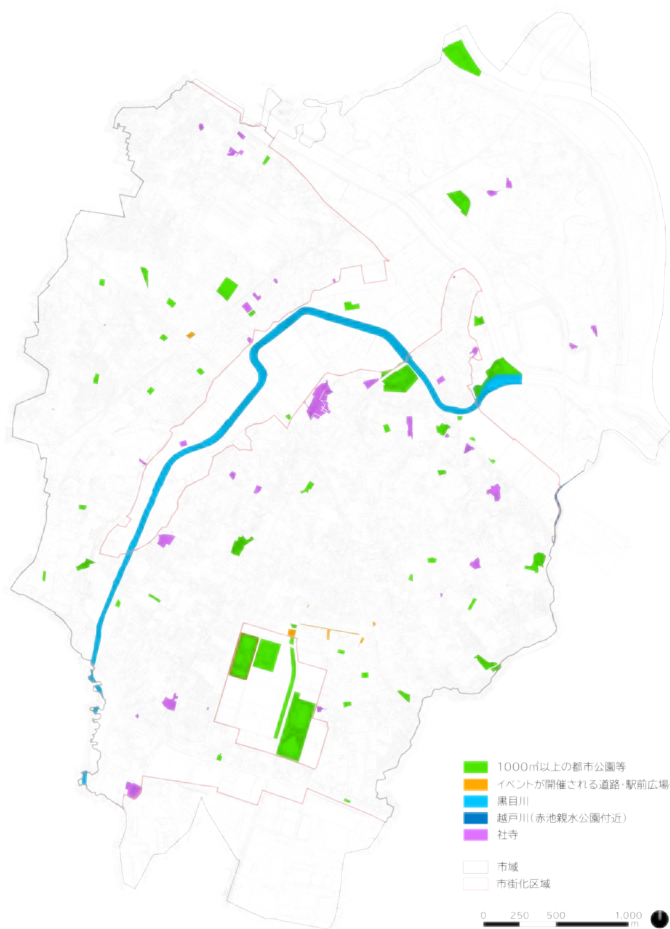


図 参-24 にぎわいを生むオープンスペース

# 1 みどりの多面的効用に着目した分析

## ⑧ 防災拠点となるみどり

みどりが持つ防災のチカラは、そこにあるだけで効果を発揮する存在効果と、避難時などに役立つ利用効果の2つに大きく分けられます。

表 参-6 防災に係るみどりの効果

区分	期待される効果
存在効果 (そこにあるだけで役立つチカラ)	延焼防止、爆発などの衝撃緩和、水害やがけ崩れの被害抑制、危険な場所への立入制限 など
利用効果 (いざという時に使うチカラ)	災害時の避難場所、被災時の活動拠点 など

### a. 火災や水害を防ぐ役割

延焼を抑える役割を持つみどりとして、都市公園や道路のほか、農地や樹林地などが挙げられます。

水害の緩和・防止に役立つみどりとしては、浸水想定区域内にある調節池や農地などが挙げられます。これらは、大雨の際に水を一時的に貯める遊水機能によって、防災性の向上に寄与しています。また、台地面の樹林地や農地、草地などは、雨水を地下へしみ込ませる能力を持っており、内水氾濫の緩和にもつながっています。

### b. がけ崩れを防ぐ役割

本市では、台地の縁にあたる斜面地を中心に、土砂災害警戒区域などが33か所指定されています。こうした場所の一部では、特別緑地保全地区などに指定することで、がけ崩れの防止と自然環境の保護を同時に行っています。

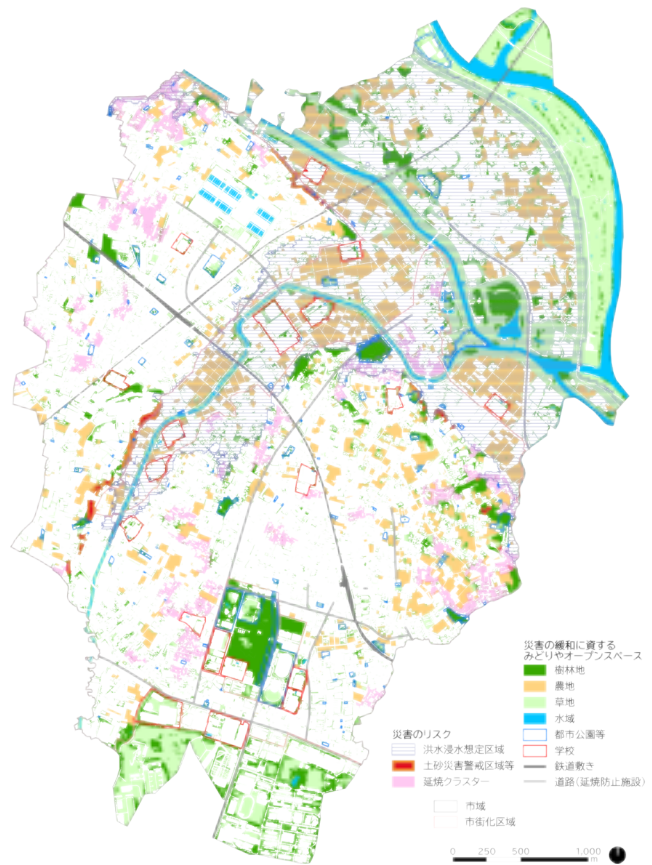


図 参-25 災害の緩和に役立つみどり

### c. 避難場所としてのみどり

みどりが持つ利用効果には、災害時の避難場所や、被災時の復旧・復興活動の拠点としての役割があります。本市では、避難所や防災活動拠点として、小学校や都市公園などがその機能を担っています。

表 参-7 朝霞市の防災活動拠点と避難場所

区分	役割と主な施設
地域防災拠点	避難場所に指定されているほか、災害直後に必要な食料や資機材が備蓄されており、地域の自主防災活動の拠点となる施設です。市内の小学校 10 校が指定されています。
防災活動拠点	災害対応の指揮をとる場所や、物資を運び込む場所などです。 ● 市役所・出張所(対策本部など) ● 各小学校・市民センター(地域防災拠点・物資備蓄場所) ● 朝霞中央公園・東洋大学(ヘリコプターの臨時離着陸場) ● 朝霞中央公園野球場・総合体育館(物資を集める拠点)
避難場所	災害時に市民の安全を確保するための緊急避難場所です。学校、公民館、保育園、公園などが指定されています。

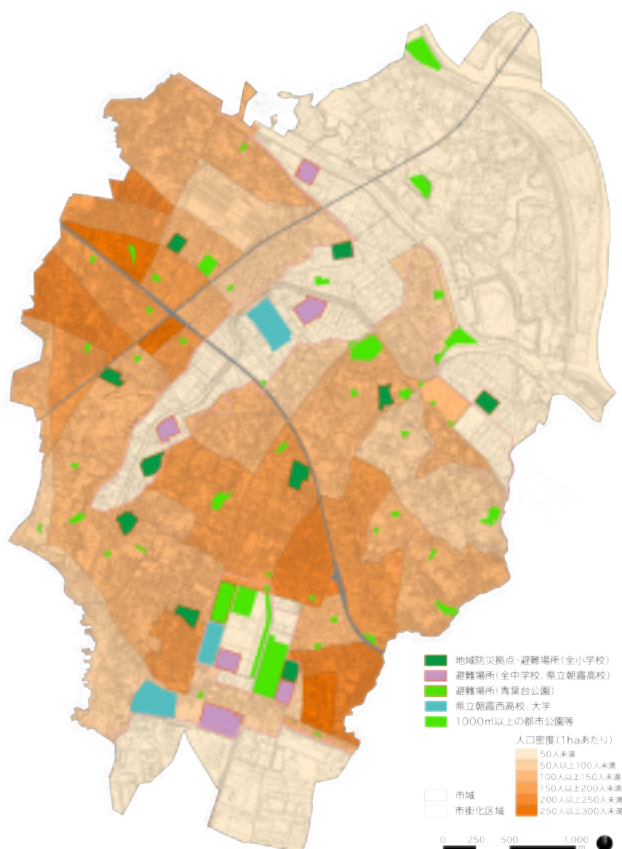


図 参-26 避難場所等のオープンスペースと人口密度

# 1 みどりの多面的効用に着目した分析

## (5) みどりの総合評価

みどりの保全や施設整備をどの場所から優先的に進めるかを検討するためには、みどりを持つ様々な価値を総合的に把握する必要があります。そこで、これまで個別に分析してきたみどりの各機能をひとつにまとめる総合評価を行いました。

### ① 総合評価の方法

評価を統合するにあたっては、市民アンケート調査の結果を活用しています。具体的には、「みどりの各機能に対して、仮に合計 1,000 円を支払うとしたら、それぞれにいくらずつ配分するか」という問いを設けて、その回答結果（金額の割合）をそれぞれの評価結果の重みとして用いています。総合評価では、評価の視点を次の 2 つの軸に分けて整理しました。

- みどりの保全性評価軸：今ある豊かなみどりを守ることを検討するための評価
- みどりの必要性評価軸：新しいみどりの必要性を検討するための評価

それぞれの統合にあたっては、まず、計算単位や数値が異なる各評価の結果を標準化して、比較できる形に変換しました。そのうえで、前述の市民アンケートによる重み付けをし、合算しています。

〔標準化：単位が異なる複数のデータを、平均が 0、分散が 1 になるように変換し、同じ基準で比較できるようにすることです。〕

表 参-8 みどりの機能別評価軸と重み付け

区分	みどりの機能	家庭の支払額	重みの割合
みどりの保全性 評価軸	水害抑制(湧水涵養)	135 円	13.5%
	ヒートアイランド現象の緩和	125 円	12.5%
	炭素固定(CO <sub>2</sub> 吸収)	158 円	15.8%
	地域生態系の保全	91 円	9.1%
	郷土の景観の保全	64 円	6.4%
	農業活動の場の保全	47 円	4.7%
みどりの必要性 評価軸	健康増進の場の充足	90 円	9.0%
	身近な遊び場の充足	121 円	12.1%
	にぎわい創出空間の充足	36 円	3.6%
	避難有効空間の充足	106 円	10.6%

## ② 今ある豊かなみどりを守ることを検討するための評価

水害の抑制、ヒートアイランド現象の緩和、炭素固定、地域生態系の保全、郷土の景観の保全、農業活動の場の保全など、これらのみどりが持つ様々な守る力を統合して評価した結果、以下のことがわかりました。

### a. みどりの働きが大きい場所

保全性評価軸において特にみどりの働きが大きいと評価されたのは、基地跡地、朝霞調節池、城山公園、黒目川のほか、根岸台など斜面林です。また、荒川河川敷や陸上自衛隊朝霞駐屯地内の草原、浜崎・田島・根岸台・内間木などの農地も、大きな役割を担っていることが確認されました。

### b. みどりのチカラを守り、育むための現状とポイント

これらの場所には、すでに緑地として守られている場所もありますが、斜面林の一部にはまだ担保性がない場所が見られます。また、市街地にある農地は、住宅地などへの転用が進みやすい環境にあります。すでに緑地として守られている場所であっても、適切な管理が十分に行き届かず、みどりが持つ本来の機能が十分に発揮できていない場合もあると考えられます。

一方、みどりの少ない市街地では、評価が低い傾向にあります。こうした場所では、木陰をつくる樹木の配置や、雨水を地面に浸み込ませる舗装の導入など、それぞれの場所の条件に合わせたみどりのチカラを高める工夫が必要です。

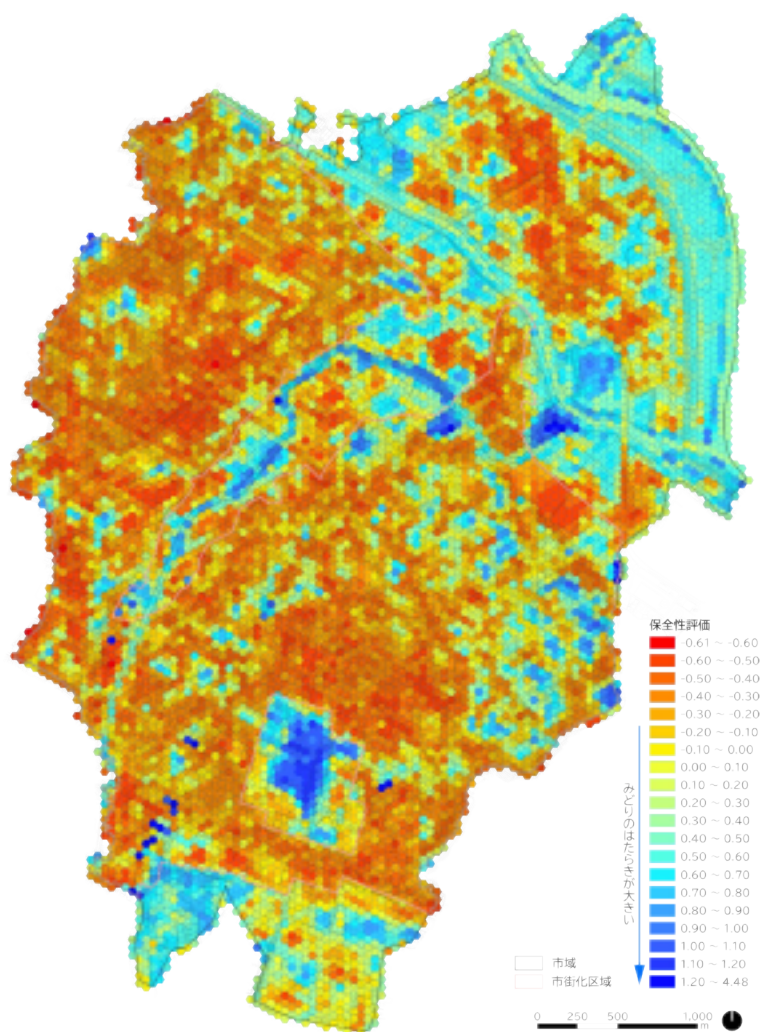


図 参-27 今ある豊かな自然を守ることを検討するための評価図

# 1 みどりの多面的効用に着目した分析

## ③ 新しいみどりの必要性を検討するための評価

健康増進、身近な遊び場、にぎわい交流、避難場所としてみどりを利用する視点から、新しくつくり改善したりする必要性を評価した結果、以下のことがわかりました。

### a. みどりのサービスが充実している場所

レクリエーションや防災機能など、みどりのサービスを十分に提供できている場所としては、青葉台公園、朝霞の森、シンボルロード、朝霞中央公園、城山公園、田島緑地、内間木公園、上野荒川運動公園、黒目川、荒川、新河岸川などが挙げられます。特に基地跡地の周辺一帯は、多くの人に住んでいる中で、遊びや防災、にぎわいといった様々な機能を備えており、中心的な場所として大きな役割を果たしています。

### b. 今ある強みを生かし、市民のニーズに応える工夫

本町の北部、栄町の東部、朝志ヶ丘から三原、弁財にかけてのエリアは、公園などのオープンスペースが少なく、人口密度が高いこともあり、みどりのサービスが不足している傾向にあります。こうした地域の人々が、日常の中でみどりの恩恵をもっと身近に感じられるような工夫が求められています。

一方、本市では、黒目川をはじめとする河川空間が、日常の楽しみや運動の場として大きな役割を果たしているのが特徴です。今後は、この独自の強みを最大限に生かし、公園と河川、そして快適に歩ける空間を効果的に組み合わせることで、市民の多様なニーズに応じていくことが重要と考えられます。点として存在する公園をつなぎ、まち全体をみどりのネットワークで包んでいくことが、これからのまちづくりの鍵となります。

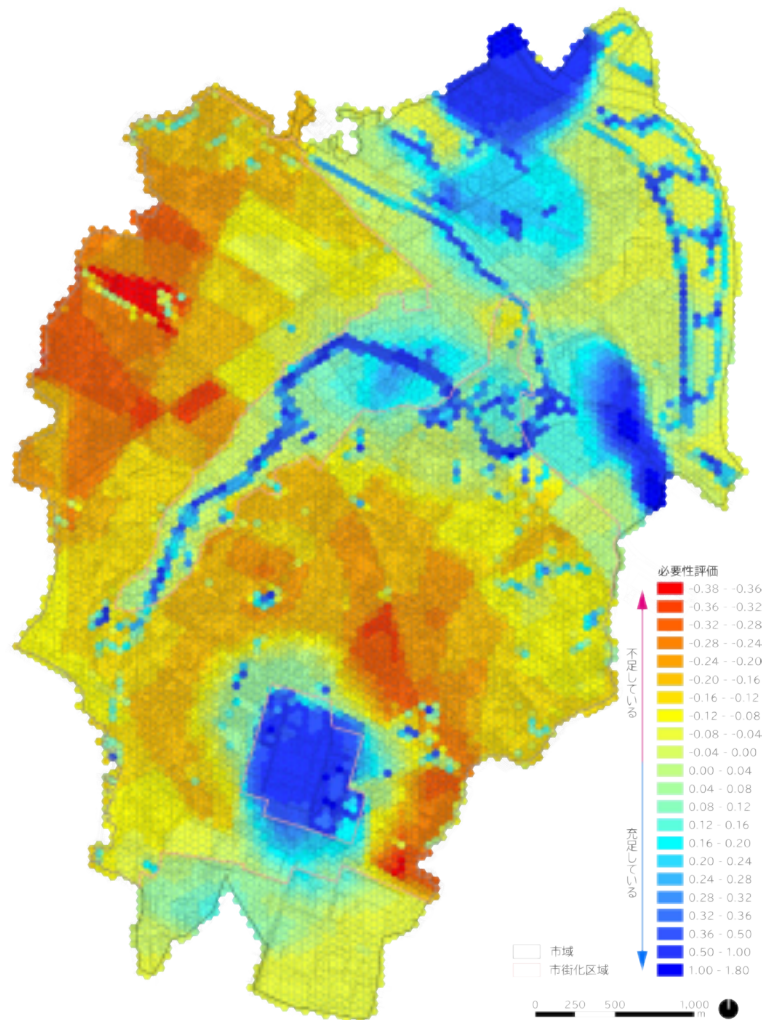


図 参-28 みどりを新しくつくり改善する必要性を検討するための評価図

## 2 みどりの市民アンケート調査

### (1) アンケート調査の目的と方法

本計画の改定にあたり、市民のみどりに対する意識や今後のまちづくりに対する意向を把握し、計画の改定に向けた検討の基礎資料とすることを目的として、市民アンケート調査を実施しました。

#### ① 配布と改修の方法

- 対象者：市内に在住する13歳以上の市民 3,000人
- 抽出方法：住民基本台帳に基づき、地域別人口構成を考慮した無作為抽出
- 配布方法：対象者へ依頼状、アンケート用紙、返信用封筒を郵送
- 回収方法：郵送（返信先：朝霞市役所みどり公園課）またはウェブ回答フォームへの入力
- 調査期間：配布：令和6年9月27日  
回収締切：令和6年10月15日（投函およびウェブ入力締切）

#### ② アンケートの回収数

- 郵送法 737人
- ウェブ回答 208人
- 合計 945人・・・回答率31.5%

#### ③ 設問項目

表 参-9 市民アンケート調査の設問構成

属性	年齢、職業、居住歴、世帯構成、居住地
問1	朝霞市のみどりに対する満足度
問2	豊か・魅力的と感じるみどり
問3	将来に残していきたいと思うみどり
問4	市内の公園の利用頻度
問5	お住いの近くの公園について
問6	みどり豊かなまちづくりを推進するための重要な施策
問7	緑化活動・緑地保全活動への参加経験
問8	市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験
問9	自然環境が有する多様な機能の認知度
問10	みどりを守るための仮定の支払い意思
意見・要望	みどりのまちづくりについての意見・要望

## 2 みどりの市民アンケート調査

### (2) アンケート調査の結果概要

#### ① 回答者の属性

- 回答者の年代は、50代(18.2%)が最も多く、次いで60代(17.9%)、40代(15.6%)となりました。40代から60代で全体の約半数を占めています。
- 市内での居住年数は、「30年以上(36.6%)」が最も多く、次いで「20年以上30年未満(20.0%)」となりました。20年以上市内に在住している方が半数を超えており、定住性の高い回答者が多い傾向にあります。
- 世帯構成は、「その他(二世帯同居等、24.7%)」が最も多く、次いで「単身者(22.6%)」、「夫婦のみ(21.3%)」となりました。また、18歳未満のこどもがいる世帯は全体の30.6%です。その内訳は、一番上の子が「小学生・中学生」である世帯が11.0%、一番上の子が「小学校入学前」である世帯が7.2%となっています。
- 回答者の居住地を地域別にみると、南部地域(38.2%)が最も多く、次いで東部地域(20.8%)、北部地域(19.8%)の順となっています。

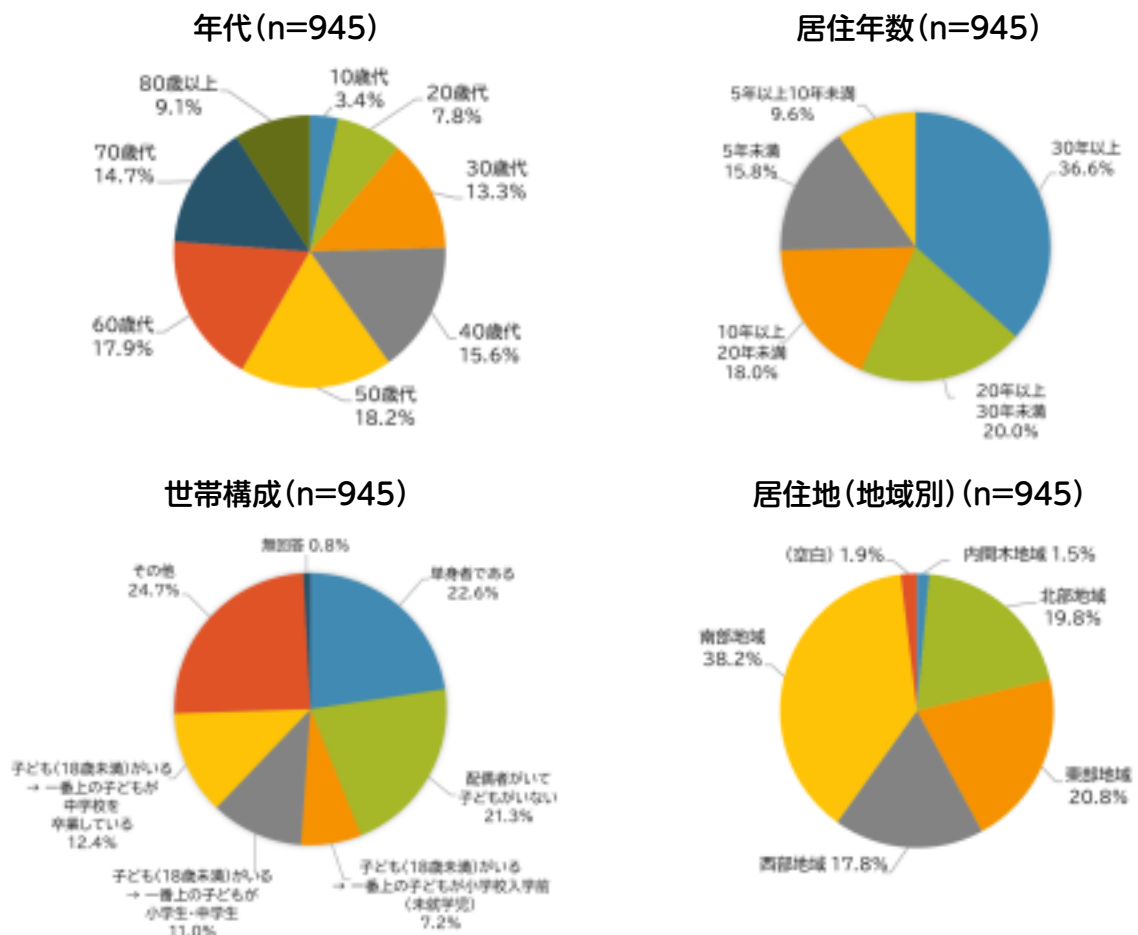


図 参-29 回答者の属性

## ② みどりの満足度について

### a. 全体

満足度が最も高かったのは、「朝霞市のみどりの豊かさや魅力(+0.29)」で、次いで「住まいの近くのみどりの豊かさや魅力(+0.19)」となりました。一方で、満足度が最も低かったのは「公園などでレクリエーション活動が楽しめる(-0.03)」で、唯一のマイナス評価となりました。また、「災害時の避難地や拠点として機能する公園がある(+0.02)」も比較的到低い評価にとどまっています。

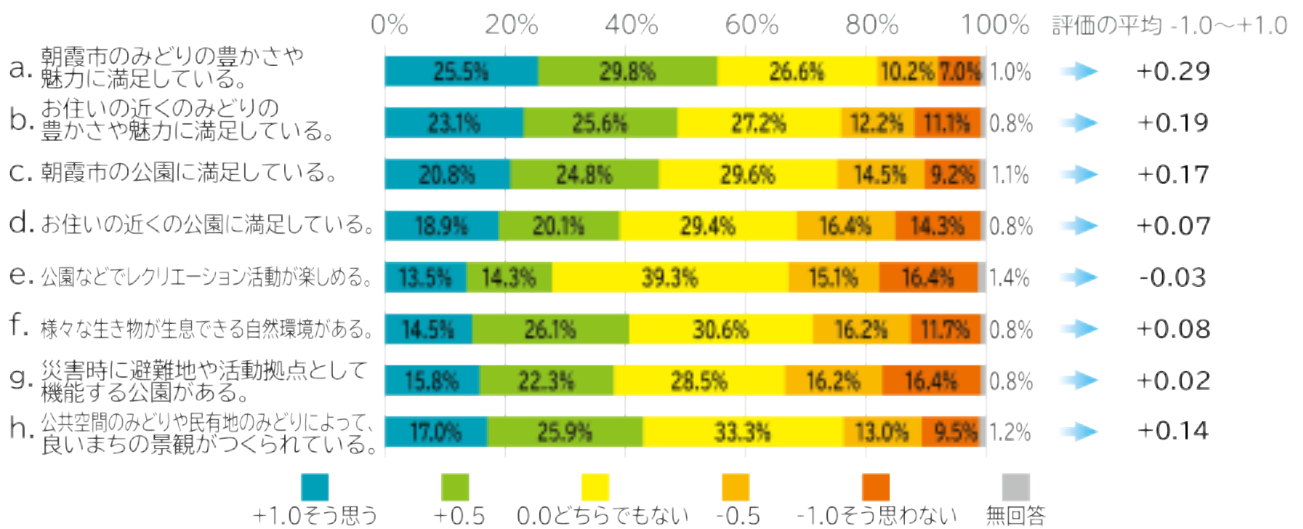


図 参-30 朝霞市のみどりに対する満足度

### b. 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している」×年代別

年代別にみると、40歳代(+0.43)が最も満足度が高く、子育て世代などの現役世代から評価されている傾向が見られます。一方で、80歳代(+0.1)が最も低い評価となりました。

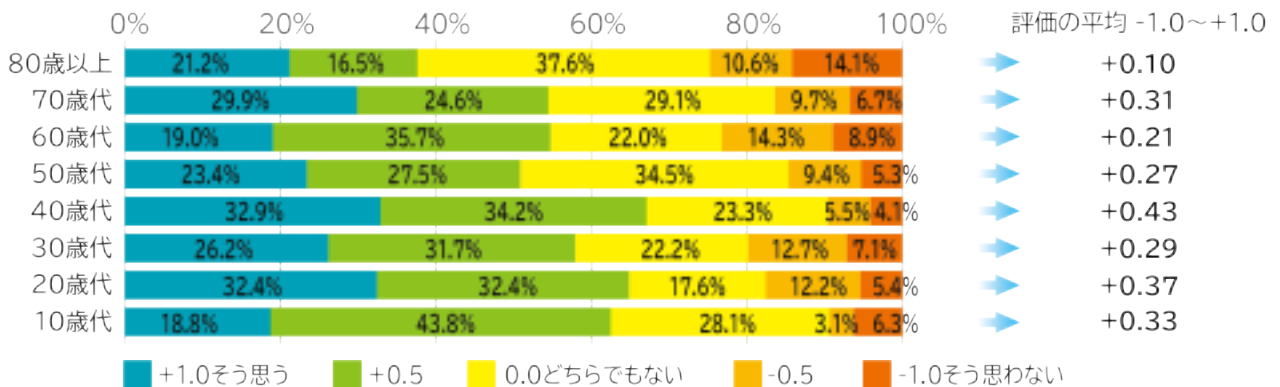


図 参-31 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」《年代別》

## 2 みどりの市民アンケート調査

### c. 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している」 × 地域別

地域別の傾向では、南部地域と西部地域で評価が大きく分かれる結果となりました。

- 市全体のみどりの豊かさ・魅力に対する満足度では、最も高いのは南部地域(+0.49)で、最も低いのは西部地域(+0.03)でした。
- 住まいの近くのみどりの豊かさ・魅力に対する満足度では、こちらも南部地域(+0.41)が最も高く評価されています。一方で、西部地域(-0.10)と北部地域(-0.02)はマイナス評価となり、身近なみどりに対する満足度の低さが顕著に表れています。

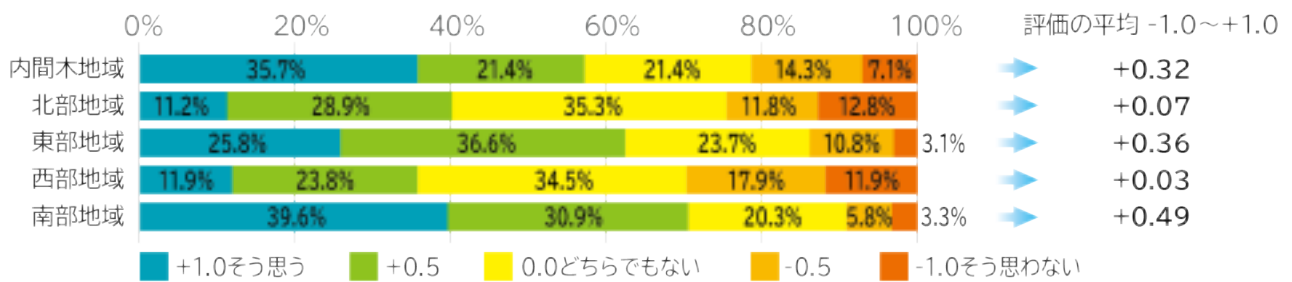


図 参-32 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」《地域別》

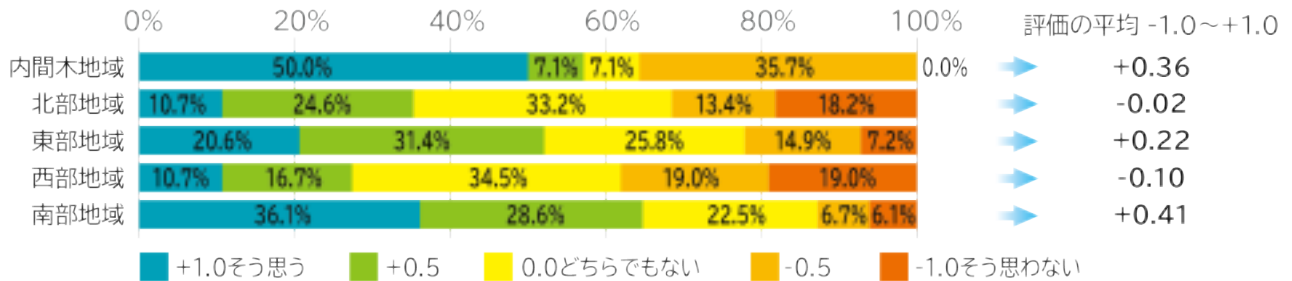


図 参-33 「お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」《地域別》

### ③ 豊か・魅力的と感じるみどり

最も豊かで魅力的と感じる場所として、黒目川(331人)が突出して多くの票を集めました。次いで、青葉台公園やシンボルロード、朝霞の森などが上位に挙げられています。

- 河川:黒目川(331人)が最多。新河岸川や越戸川も魅力的な水辺として認識されています。
- 公園:青葉台公園(116人)、城山公園(70人)、朝霞中央公園(43人)、滝の根公園(35人)といった、面積の広い公園が高い評価を得ています。
- その他:シンボルロード(115人)や朝霞の森(106人)が、公園と同様に多くの市民に親しまれています。

### ④ 将来に残していきたいみどり

将来に残していきたいみどりについては、朝霞の森(158人)と黒目川(154人)がほぼ並んで多くの支持を集めました。

- 拠点的なみどり:朝霞の森(158人)、シンボルロード(42人)、基地跡地(34人)といった朝霞を象徴するエリアの保全を望む声が多く寄せられました。
- 河川:魅力度でも1位だった黒目川(154人)が、将来に引き継ぐべき貴重な自然として認識されています。
- 主要な公園:城山公園(85人)や青葉台公園(55人)、滝の根公園(27人)など、比較的規模の大きい公園が上位に挙がっています。

### ⑤ お住いの近くの公園について × 地域別

公園の施設や環境について地域別に分析したところ、地域によって評価が分かれる結果となりました。特に南部地域では肯定的な評価が多い一方、その他の地域では今後の改善を期待する傾向が見受けられます。

- ベンチ等の休憩施設の充実度:ベンチなどの休憩施設については、北部地域と西部地域でやや低い評価となりました。
- 安全に遊べる遊具の充実度:「安全に遊べる遊具が充実している」との回答は、南部地域(+0.16)が最も高く、その他の地域では課題を感じている方の割合が比較的高い結果となっています。
- 景観の良さ:「公園の植物がよい景観をつくっている」という項目では、南部地域(+0.37)で高い評価が得られました。
- 木陰の確保:「夏の日よけになる木陰が十分にある」という項目についても、南部地域(+0.36)で高い評価が得られました。

## 2 みどりの市民アンケート調査

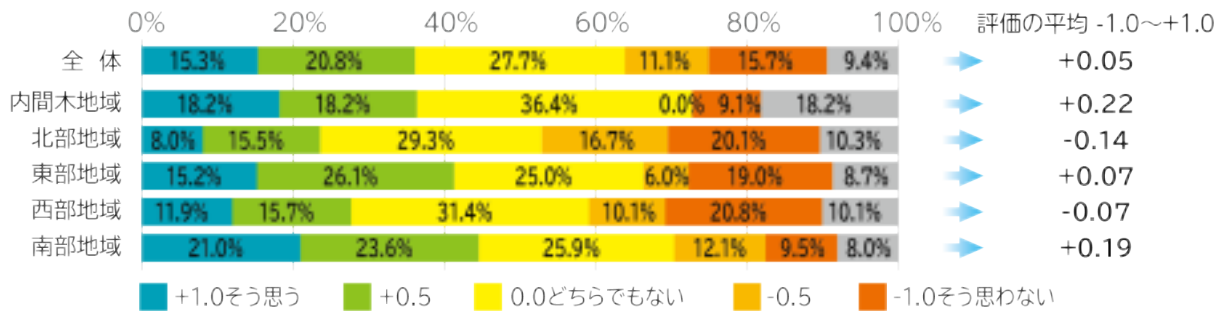


図 参-34 「ベンチなどの休憩施設が充実している。」《全体・地域別》

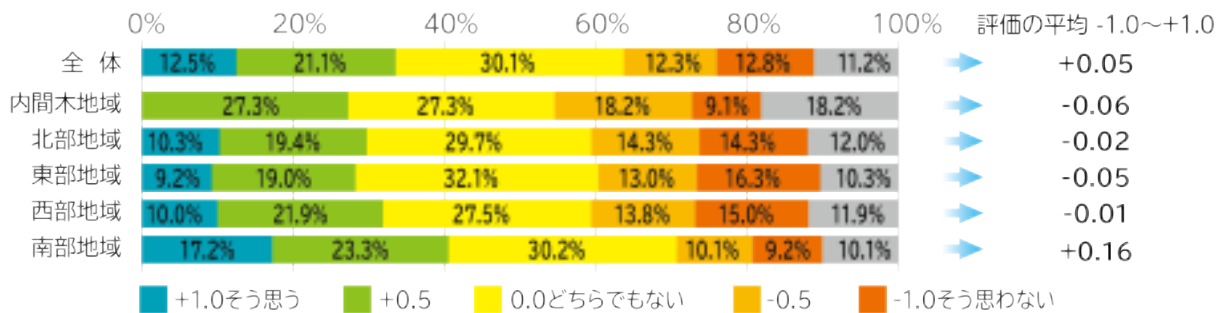


図 参-35 「安全に遊べる遊具が充実している。」《全体・地域別》

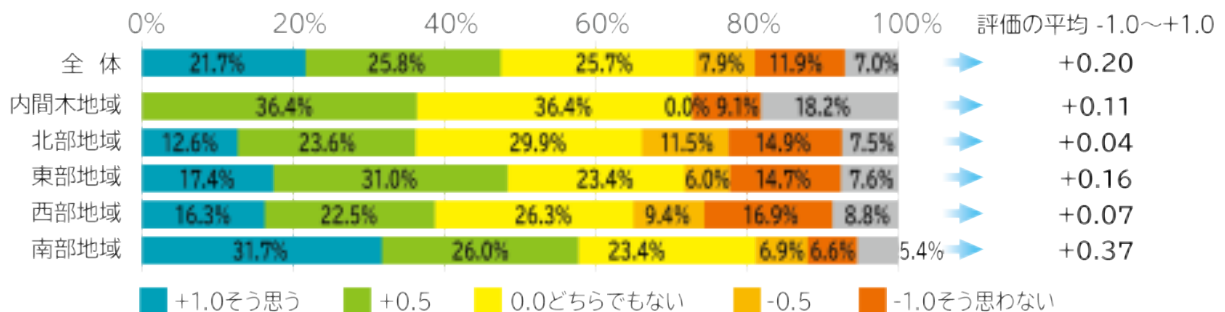


図 参-36 「公園の植物がよい景観をつくっている。」《全体・地域別》

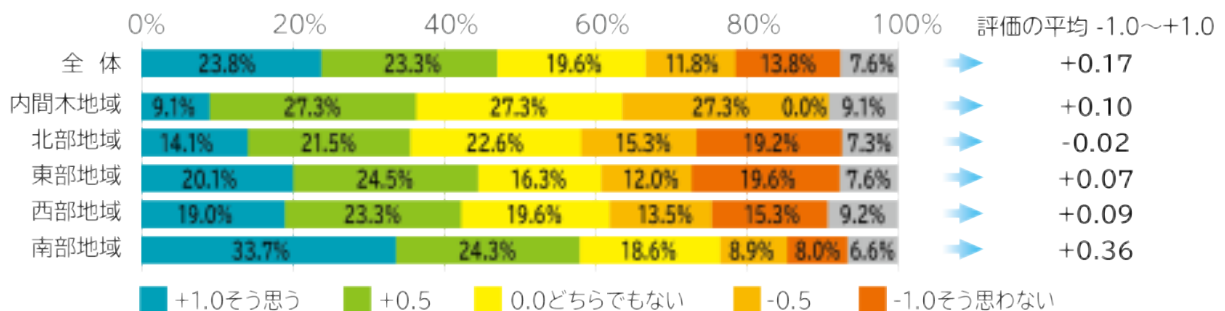


図 参-37 「夏場の日よけになる木陰が十分にある。」《全体・地域別》

1章 計画の基本的事項  
2章 みどりの現状と課題  
3章 みどりの将来像  
4章 みどりの指針  
5章 みどりの取組  
6章 地域別の取組  
7章 計画の実現に向けて  
参考資料集

### ⑥ みどり豊かなまちづくりを推進するための必要な施策

今後必要だと思う施策については、「道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(351件)」が最も多くの支持を集めました。次いで「だれもが気軽に利用できる身近な公園や緑地の充実(292件)」、「川沿いの遊歩道の充実(242件)」が挙げられ、日常生活に密着した整備を望む結果となりました。

属性・地域別の傾向を見ると、身近な公園・緑地の充実は、10～20代の若年層や70代以上の高齢層、未就学児のいる世帯など幅広い層から支持されています。地域別では、内間木地域(34.4%)において特に関心が高い結果となりました。

また、世代による期待の違いについては、子育て世代がレクリエーション空間を重視する一方で、世代が上がるにつれて安全な歩行環境や自然とのふれあいを望む声が高まるなど、それぞれのライフステージに応じたニーズの変化が見受けられます。

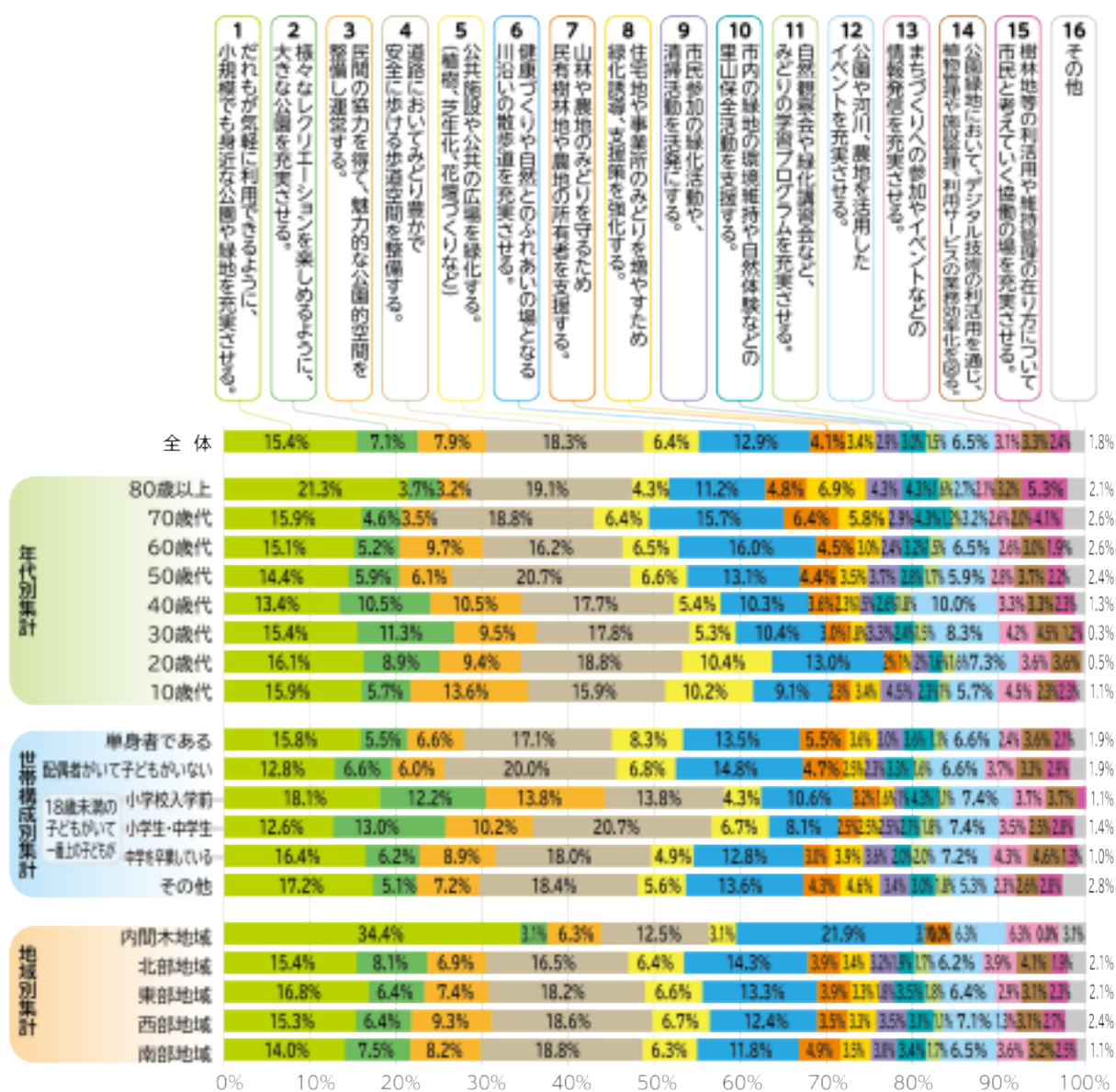


図 参-38 みどり豊かなまちづくりの推進に必要なと思われる施策 《年代別・世帯構成別・地域別集計》

## 2 みどりの市民アンケート調査

### ⑦ みどりの活動への参加経験

緑化や緑地保全活動への参加経験については、「生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(10.7%)」が最も多く、次いで「道路などの清掃活動(10.3%)」となりました。

年代別の傾向を見ると、高齢層では清掃活動や自宅の緑化への参加経験が比較的高い一方で、若い世代ではこれらへの参加が少なくなっています。また、子育て世代においてはプレーパークなどこどもに自然との遊び方を教える活動や身近な生き物観察・みどりの調査に参加する方が多い傾向にあります。

一方で、70歳代や80歳以上の層ではすべての活動に参加したことがない方の割合が他の世代に比べて高くなっており、世代によって活動への係わり方に違いが見受けられます。

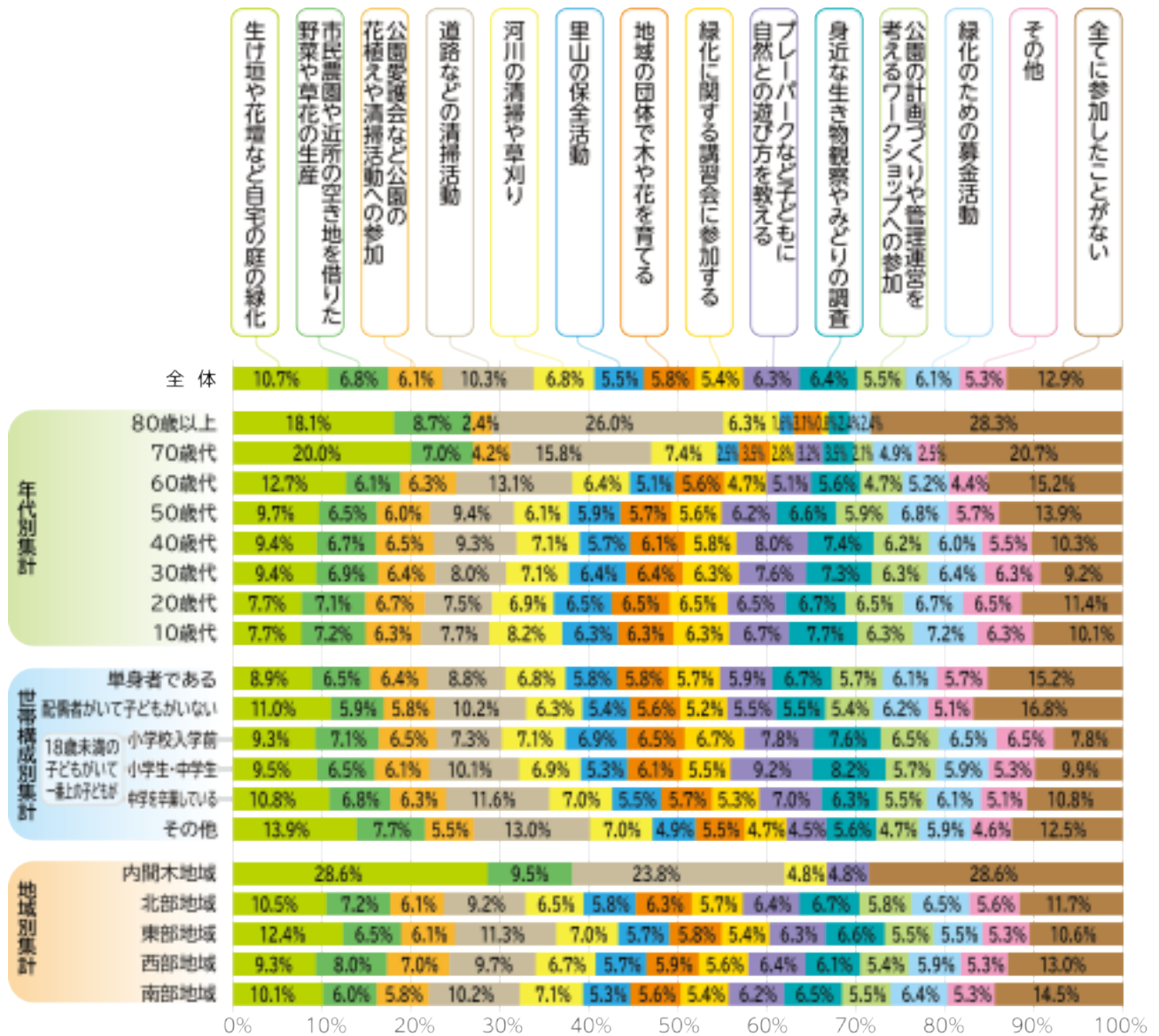


図 参-39 年代別・世帯構成別・地域別の参加活動構成比

### ⑧ 市内の公園や緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験について

市内の公園や緑地で開催されるイベントやまつりへの参加経験については、「彩夏祭(64.8%)」が最も多く、次いで「黒目川花まつり(46.3%)」、「身近な公園で開催される納涼祭やイベント(27.3%)」の順となりました。また、「あさか冬のあかりテラス(25.6%)」や「ASAKA STREET TERRACE(23.3%)」も上位に挙げられています。

属性別の傾向を見ると、子育て世代において朝霞の森プレーパークや農業収穫体験、移動式プレーパークといった体験型イベントへの参加割合が全体に比べて高い結果となりました。公園等の空間が、子どもたちの遊びや貴重な体験の場として活用されている状況が伺えます。

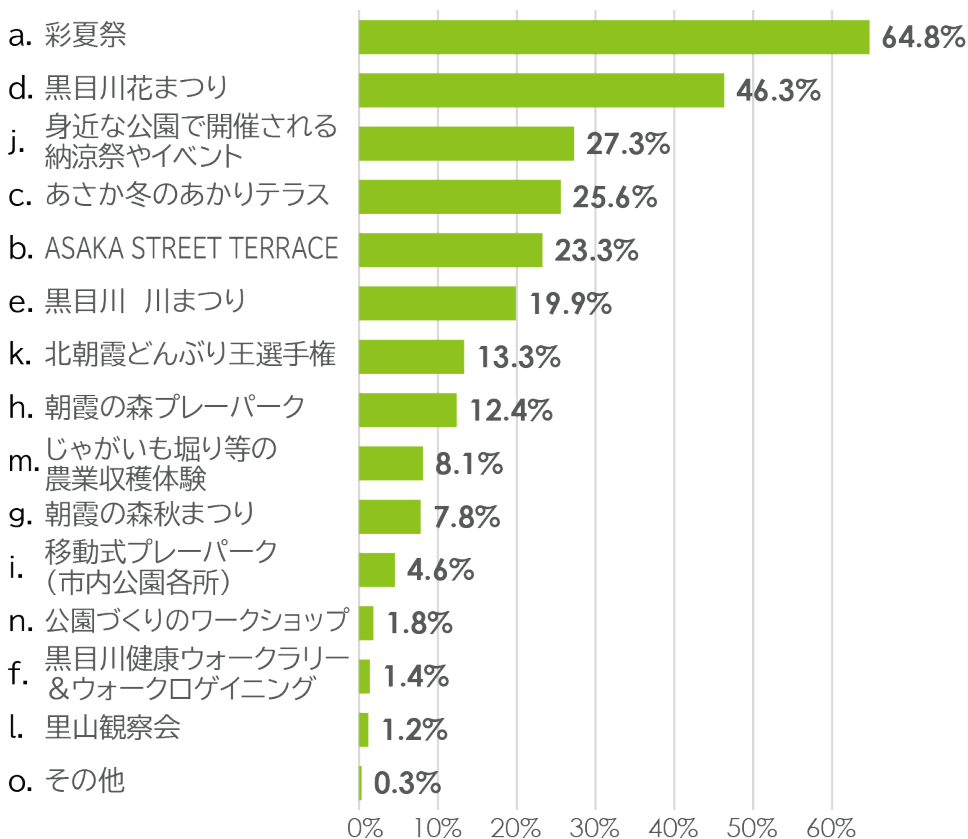


図 参-40 市内の公園や緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験

## 2 みどりの市民アンケート調査

### ⑨ みどりを守るための仮定の支払い意思について

総額 1,000 円持っているとして仮定したら、みどりの持つ機能にどのように配分するかを調査したところ、全体では「CO<sub>2</sub> の吸収源となり地球温暖化を緩和するみどり(158 円)」が最も高く、次いで「自然災害による被害を軽減するみどり(135 円)」、「都市の気温上昇を緩和するみどり(125 円)」、「こどもの遊び場や散歩の場となるみどり(121 円)」の順となりました。

属性や地域別に見ると、子育て世代や内間木地域では「こどもの遊び場や散歩の場となるみどり」への評価が最も高くなっており、ライフステージや居住環境によってみどりに期待する役割に違いが見られる結果となっています。

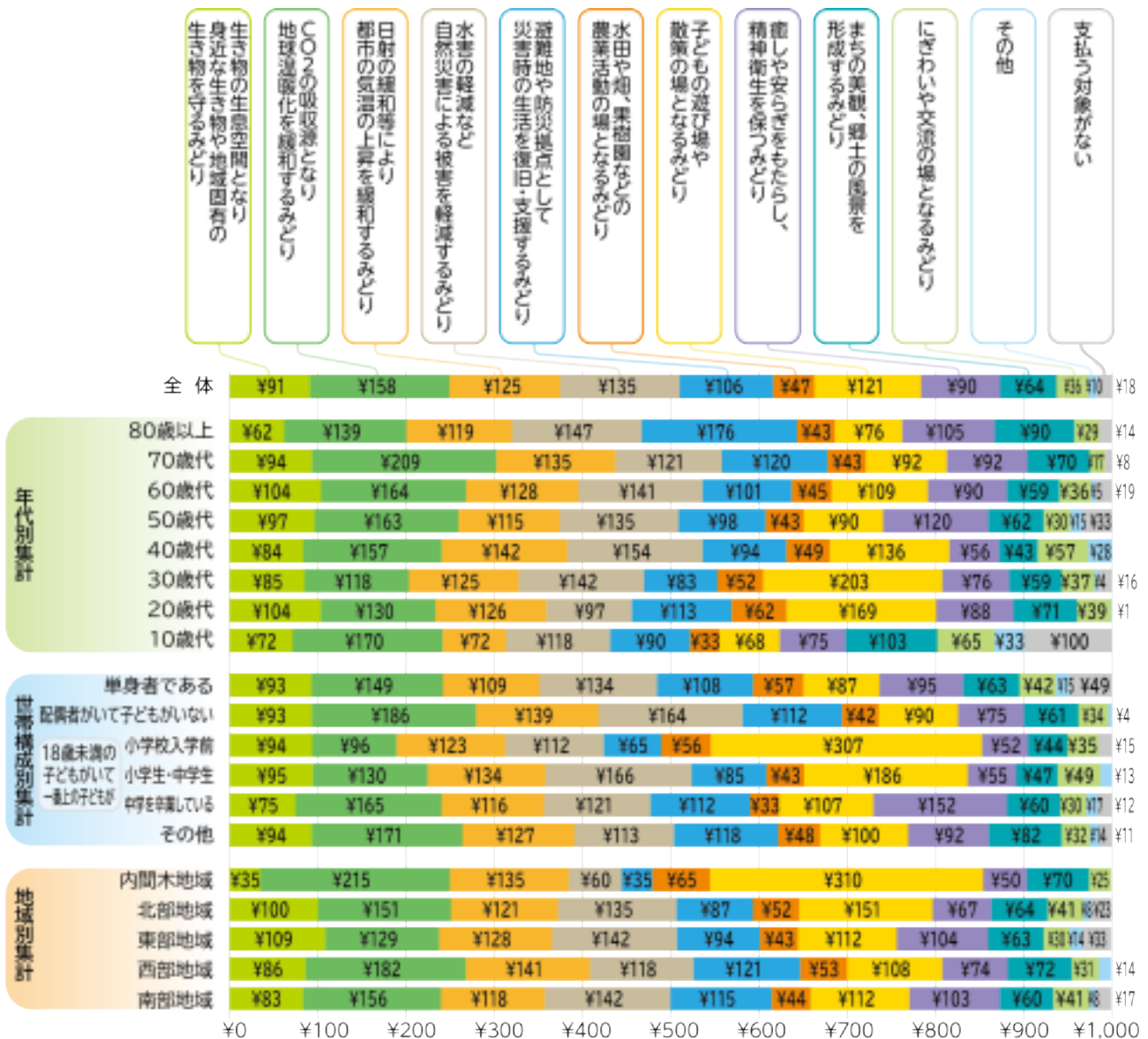


図 参-41 みどりを守るための仮定の支払い意思《全体・年代別・世帯構成別・地域別》

### 3 みどりの基本計画の策定に向けた市民ワークショップ

#### (1) シンボルロードの緑地管理を考える勉強会

令和 2(2020)年にオープンしたシンボルロードは、みどり豊かな憩いの場として多くの市民に親しまれています。一方で、木々が大きく育ちすぎて混み合ったり、手入れが必要な老木が増えたりするなど、みどりの質を保つための課題も見受けられるようになりました。

こうした背景から、これまで専門家と市民が参加するワークショップが開かれ、どう使い、どう守っていくかという視点から、管理計画の策定に向けた話し合いが進められてきました。令和 6 年 3 月には、樹木医の協力を得て、現地の木々の魅力や課題を整理する勉強会が行われました。

今回の勉強会は、その内容をさらに深めるものとして開催されました。みどりを管理する上で大切な視点を改めて学ぶとともに、現地の樹木を題材にして、どのような手入れがふさわしいのかを具体的に解説しました。朝霞のまちのシンボルとなっている場所を、次世代へ健やかに引き継いでいくための重要なステップとなっています。



現地での勉強会の様子

- 日時：令和 7 (2025) 年 1 月 26 日 (日曜日) 午前 10 : 00 ~ 12 : 00
- 場所：朝霞市役所大会議室 (座学) → シンボルロード (現地樹木を題材とした勉強会)
- 講師：都市緑化機構環境緑化技術共同研究会 伊東伴尾 豊田幸夫 直木哲 藤田茂 今井一隆
- 参加人数：15 名

#### 【講師による現場での解説・提案の内容】

<p>〈安全と樹木の健全性対策〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・どのような樹林にしたいか検討する必要がある。</li><li>・樹木の密度管理が必要である、大木の周りの実生木の除伐が必要である。</li><li>・枯れ枝や細い枝は早めに撤去することが推奨される。</li></ul> <p>〈特定の樹木の保全〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・シンボルツリーの保全が必要である。</li><li>・ヤマザクラを保全する場合は周りの木を除伐する必要がある。</li></ul> <p>〈特定の常緑樹の管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アオキの実生木は剪定が必要である。</li><li>・常緑の中木は視認性確保に配慮が必要である。</li></ul>	<p>〈貴重種の保護〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日陰や落ち葉などの必要条件を確保する必要がある。</li><li>・貴重種の保護看板の設置が推奨される。</li></ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・林床保護のため散策路やベンチの整備が推奨される。</li><li>・剪定枝などで作るバイオネストの配置も推奨される。</li><li>・イルミネーションは設置・撤去時に樹木へのダメージを避ける配慮が必要である。</li></ul>
---	---

### 3 みどりの基本計画の策定に向けた市民ワークショップ

#### (2) みどりの基本計画の策定に向けたワークショップ

これからのみどりのまちづくりを考えるため、参加者が意見を交わすワークショップを開催しました。このワークショップでは、まちの課題や魅力的な資源を見つけ出し、将来の姿やそれを実現するためのアイデアについて、グループに分かれて話し合いを行いました。

- 日時：令和7年2月22日（土曜日） 午前 10:00～12:00
- 場所：中央公民館・コミュニティセンター 1階 第1・第2集会室
- 参加人数：15名

グループワークのテーマは、市民アンケート調査の結果などを踏まえ、身近な遊び場、歩くことが楽しいまちづくり、シンボルロードの緑地管理の3つを設定しました。



A班  
(身近な遊び場)



B班  
(歩いて楽しいまちづくり)



C班  
(シンボルロードの緑地管理)



図 参-42 A班成果品

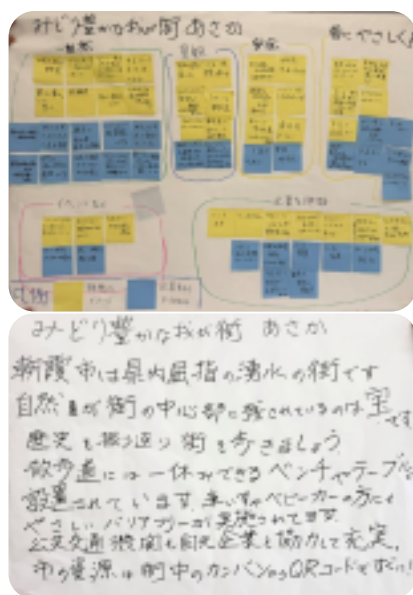


図 参-43 B班成果品



図 参-44 C班成果品